

■■■ 男性学を学んで ■■■

今年、新しい理事になった片田です。普段は、私立の中学高校で公民や現代社会を教えています。6年前に学習ボランティアでKFCに関わり始め、最近「みんなのダイニング」をお手伝いしています。

せっかくの機会なので、片田 孫 朝日という名前について自己紹介させていただきます。片田が父の姓で、孫が母の姓。父は日本人、母は在日朝鮮人2世です。私は日本国籍で生まれ、片田 朝日という名前で大きくなりました。孫を入れた名前は、大学時代にペンネームとして使い始めました。今から20年ぐらい前の話です。当時、両親の姓を並べて使う人は、日本にほとんどいなかったと思います。わたしは、Marjorie Harness Goodwin (マジョリー・ハーネス・グッドウィン) のような海外の名前を参考にしました。欧米では民族や宗教により、両親の姓を並べるものや、洗礼名をミドルネームとして使う場合などがあるようです。

この私の名前は朝鮮系のルーツを残したいと思って使い始めましたが、日本および朝鮮の父系主義の伝統をゆるめる意味もあります。わたしは教師になる前に、大学院で社会学のジェンダーとくに男性の生き方の研究をしていました。そして、これも家庭の影響を多少受けています。というのも、わたしの生まれた家は、母が中心の家でした。母がお金を稼ぎ、家事をし、子どもを育てました。父は労働組合の活動家で、私が小さい時はほとんど無給でした。また、夜遅く帰ってきて、土日も家にいません。お金的にも精神的にも、母が大黒柱の家庭でした。父は、「男なのに」お金を稼がず(いわゆるヒモ)、自分がやりたいと思った活動をやり続け、短い人生を幸せに生きました。いつも若々しく、わたしの兄かと間違われるような人でした。男にとって、豊かな人生とは何でしょうか。

ご存じのように、日本や韓国では、男性がお金を稼ぎ女性が家事育児をする、言い換えれば、男性が経済的に高い地位を占め、女性が家計の補助をするという性別役割分業が強固です。世界経済フォーラムの「男女平等指数 (gender gap index) 2015」では、日本が145か国中の101位、韓国が115位で、両国とも男女の地位格差が非常に大きい国だということが分かります。日韓は、女性の「経済参加と機会」および「政治的エンパワメント (女性議員の数など)」の点数が低いことで共通しています。(ちなみに、ベトナムは83位、中国は91位です。)

このように、日本や韓国は男性中心の経済・政治システムをもっている国ですが、男性がほんとうに自由なのかというそれは違うと思います。少なくとも、私の父のように生きられる人間はほとんどいないでしょう。普通の男性はお金を稼ぐ役割を期待され、そして労働時間が長い。ときには死ぬほど長い。昨年、厚生労働省が認定しただけでも、日本の過労死・過労自殺は189人にのぼります。私は、男子校で生徒たちに教えています。労働基準法に従って労働時間を1日8時間にきちんと規制し、子育てや介護をしながら両親が働き続けられる社会環境を作っていくべきだと。優秀な女性に会社で出世してもらい、時間当たりの生産性を上げ、男性も長時間労働から解放されるべきだと。男女平等は、男性の人権(自由)にとっても大きな課題なのです。(理事 片田 孫 朝日)

■■■KFC日本語プロジェクト■■■

◆日本語プロジェクトと子ども学習支援に関わって

私はブ ティ テウ トウイ(THUY)と申します。去年10月ベトナムから来日し、神戸大学で経済学を勉強しています。ベトナム人のフエ先輩から、日常の外国人支援に取り組むことを目的に設立された神

戸定住外国人支援センター(KFC)について話を聞いていました。この先輩の紹介で、同組織の一員としてやさしく受け入れられて来ました。具体的に、在日ベトナム人への日本語学習支援者としての責任を担うことになりました。

まず、子どもに対しては、「こどもの日本語」や「みんなの日本語」などを主教材として使用していますが、子どもたちの理解度を高めるために、絵や図などを見せ、語彙を出させ、出て来た語彙で導入するようにしています。また、子どもたちが日本語の宿題の問題の意味が分からなくて、なかなかやって来ないので、質問をベトナム語に訳して、詳しく説明してあげることが必要です。自分で問題を解くことができるようになり、勉強に前向きになった子どもたちの笑顔が見られるときは、本当に嬉しい気持ちになります。

ところで、学習者で、大人と子どもの違いは何でしょうか。やはり大人は子どもよりはるかに長い時間がかかるんですね。彼らは慣れない日本語の壁にぶつかったり、文化の違いによるカルチャーショックを受けたりする労働者で、仕事が忙しくて、勉強の時間があまり取れないです。レベルによって進むスピードが違いますが、私は各回を復習、新しい文法・語彙の導入、問題練習、会話という順で進めていきます。また、日本の文化、風俗、習慣などを紹介してあげると、あまり日本についての知識が乏しい方は理解が深まっていくと言えます。

KFCの一員になってから1年間が経った今、私は日本語の大切さを痛感し、日本語学習支援に非常に興味を持ち、支援者として精一杯努力しています。今後益々がんばりたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。(VU THI THU THUY)

■■■KFC外国にルーツを持つ子どもの学習支援■■■

◆ 高校生ボランティアになって

今年、私は高校生になり、KFCでボランティアを始めました、毎週の木曜日の学習支援と金曜日の“KFCみんなのダイニング”の両方をしています。中三のときまではKFCの皆さんに大変お世話になっていた側なのですが、今では自分よりちょっとだけ小さい中学生たちを世話する側になりました。これは私の初めての作文になるのですが、木曜日と金曜日の活動を書いていきたいと思います。

木曜日の学習支援では私は夜の6時半から8時半までの中学生の部を担当して半年ぐらいを過ごしてきました。みんなはそれぞれ違う学校から来て、それぞれ日本語、理科、国語などの違う教科を勉強して、バラバラで大変でした。国籍や性格なども違うことを加えていたら、時々しんどい思いがしたこともありました。教えられる側から急に教える側になってみたら、人にものを教えることはとても大変でした。今、私が教えているのは中国から来たばかりのまだ日本語があまり話せない中学生です。年が近いせいか、あんまり私の話を聞いてくれなくて、何かを教えようとしても、すぐに集中力が切れ、やる気がないときもありましたが、それでも少しずつ彼らと一緒にたくさんの困難を乗り越えてきました。そうやって一緒に勉強していく中で、徐々に楽しくなって、不思議なことに自分も成長したなと思うようになりました。

金曜日の“みんなのダイニング”では、主に孤食の問題を解決するために子どもたちと一緒に料理を作り、食卓を囲んで食事をしたり、話をしたり、遊んだりしています。私は5時からいろんな準備をしています。後で来た子どもたちも手伝ってくれてとてもうれしいです。食卓でいろんな話をしていいるのもとても楽しく、皆と仲良くなってとても有意義な時間を過ごせています。

私のKFCでの時間はとても有意義で、一分一秒も無駄はありません。ボランティアになって、初めて気づいたことや知らないこともたくさんありました。これからもがんばっていきたくて思っています。(陳宗堯)

◆ 進学相談会

中学校教員の韓裕治先生にお越しいただき、進路相談会を10月20日、27日、11月10日の3日に亘って開催しました。中国ルーツ4人、ベトナムルーツ5人の全部で9人の中学3年生がおり、中国ルーツの子どもは日本生まれでない子どもが多く、学校で提供されている進路情報や奨学金情報などもあまり理解できていないため、中国語等の通訳を交えて詳しく説明していただきました。

初めて日本の高校へ子どもを進学させる中国人保護者からは、情報不足のための不安や子どもができるだけ希望する進路へ向けてモチベーションを下げずに学習できるよう心を砕いておられる様子が感じられました。（志岐 良子）

◆ 人権研修会を終えて

10月8日に子ども見守る支援者のための人権研修会を開催しました。講師としてKFCの理事であり、人権教育や多文化教育を専門に研究されている甲南女子大学の野崎志帆先生をお招きし、午前中はディズニー映画「ズートピア」の鑑賞を、午後は講義とディスカッションを13名のKFCの学習支援に関わる支援者の方や大学生と共に参加しました。

映画は、田舎町のにんじん農家で育ったうさぎのジュディが、うさぎとしては例のない「警察官になる」という幼い頃からの夢を叶え、「誰もが何にでもなれる」ズートピアという町で多様性について学んでいくお話です。ジュディは自分がうさぎというだけで、他者から「か弱い・かわいい」存在とみなされ、警察官としては「頼りにならない」と差別・偏見を受けますが、それと同時にジュディ自身も、きつねやナマケモノなど他の動物に対して見た目や限られた情報で判断していることに気づきます。様々な価値観を持つものが共に暮らすとはどういうことなのかという問いを投げかけてくれる映画でした。

野崎先生からは、ステレオタイプ・偏見・差別の言葉の定義から、日常の中で私たちは自分たちが理解しやすいように物事をカテゴリー化しながら考えていること、その過程で十分に事実を確認することを怠り、物事を納得したり不安を解消しようとする「偏見」となってしまうかねないことなどをお話いただきました。その他にも、人間は「自分は価値ある存在である」と思いたい生き物だが、特に自分に対して不安を抱えているとき、差別によって他者の価値を奪い、「自分より劣った」存在を作ることによって自分の価値を保とうとする、ということも印象に残っています。

今回の研修会は、KFCに来ている子どもたちがまだ十分に判断するスキルがないために生じる、いじめや差別発言などに遭遇した時に対応する術を、大人が得ることが目的でした。しかし学んだことはいずれも、日常生活の中で実践として活かせることばかりでした。差別に繋がるような行動や発言を子どもがするとき、その発端はまず大人が、そのような発言をしていたり、無意識にでも態度で表している可能性があると思います。それは多文化共生の分野に関わらず、例えば電車の中で泣いている赤ちゃんとそのお母さんに対してであったり、家がなく公園で寝泊まりをする人に対してであったり、状況は様々です。そんな時に、目の前で起こったことをそのまま判断するのではなく、そうなった背景まで想像してみることは重要ではないかと思いました。「メディアから受けている影響を自覚し、自分も間違いを犯す可能性があることを認め、自分の中の偏見に対抗する必要がある。」野崎先生の講義の締めくくりの言葉からは、偏見が一人一人から生じることと同じように、それをなくすのもまた一人一人の意識次第だということが感じられ、私が今から始められることとして強く心に残りました。今回このテーマについてかみ砕き、深く考える機会を頂けたことに感謝して、実践に移していきたいです。（高橋 愛満）

◆敬老の日

今年の夏はとても暑かったですが、今日9月13日は少し涼しかったです。

今日のKFC帰国者新長田交流会では、約60名位の帰国者が双葉学舎に集まって敬老会を行い、楽しく活動しました。

帰国者で以前シェフをしていた人と料理が好きな人達とでお昼ご飯を作りました。そこには日本人ボランティアも参加していました。

中国の東北地方に住んでいた帰国者は、かなり多いです。この地方は水餃子をよく作る習慣があり、これは東北人の特技なのだと思います。具がおいしいだけでなく、皮もとてもおいしいのです。また、長寿を意味する素麺も食べました。食事が始まる前に、参加者のひとりが、お祝いの言葉を述べ、75歳以上の老人にプレゼントを渡しました。

皆で食べながら、いろんな出し物を演じました。中国少数民族の楽器を演奏したり、漢民族の京胡や二胡を弾いたり、また、中国伝統の京劇を歌ったり、現代の歌を歌ったりして、まるで中国にいるみたいでした。

若い時、中国で生活していた帰国者老人の多くは、日本に帰国した後、日本の名前に戻っていますが、中国の文化と考え方を、未だ持ち続けています。しかし、もちろん、皆頑張って日本文化も勉強しています。敬老の日は、日本も中国も同じ文化だと思います。

午後三時を過ぎて、楽しい時を過ごした敬老会の活動は終わりました。健康でまた来年も会いたいね。と皆で誓い合いました（陳 紀仲）

■■■ ハナの会 ■■■

◆秋の遠足

さあ皆で遠足です。と！！言ったものの場所は…！？利用者様がそれぞれあそこに行きたい、ここに行きたいと言われ、行く場所を決めるまでに数日がかかり、やっとフルーツ・フラワーパークに決まりました。そして行かれる利用者様にチケットを配り、予定は一週間先送りになり10月25～26日の2日間に分けて行く事になりました。行く前に利用者様が天気を気になされていました。私は25日の運転を任せられました。25日の天気は曇り空、気候は寒くもなく暑くもなく良い日でした。3台の車でデイサービスセンターハナの会を10：30ごろ出発、長田から高速に乗り、車中では、景色を見ながらお話ししたりと賑やかにしている間に、約40分程度で三田フルーツ・フラワーパークに到着しました。パーキングから車椅子、杖の利用者様方、スタッフの見守り万全で、入口階段下まで皆様で移動し、その周辺には、コスモスやサルビア、様々な花が綺麗に咲いていました。そこで記念撮影をしました。利用者様は花が好きで釘付けになっていました。階段とスロープを使って正面左通路を通り右に曲がると温室の野菜工場があり、次に廊下を進むと苺や様々な観葉植物が綺麗に咲いていました。廊下を抜けると中世ヨーロッパのルネサンス様式の美しい建物や庭園が真ん中には、噴水がそこで2回目記念撮影を終え風のいたずらか？噴水の水が少し雨のように風で煽られたみたいで、少し濡れましたがすぐ乾く程度の水でした。その後、すぐ近くの食事の広場に移動しました。テーブルと椅子も木で作られ、スタッフが用意していたクッションを敷き、食事前のトイレ休憩です。食事する広場は少し風が吹き各自持って来た上着を着て寒さを防ぎました。その間、スタッフは配茶し、ハナの会手作りお弁当を配り皆様と一時の楽しい食事を楽しみ、その後皆様にお薬の方には水、そしてコーヒーを配りました。その後しばらくスタッフ数名で広場を沢山のしゃぼん玉にして皆様大喜びでした。そして移動し噴水の隣に花壇側面を花崗岩を長方形にし、互い違いに二段に積み囲み作られていました。そこで少し休憩しました。そこで再び利用者様が「童心を思い出されるように」スタッフ数名でしゃぼん玉を風に向けて吹き、利用者様は大喜びでした。その後、朝レクリエーションの時、初めに足踏みしながら歌うハナの会の3曲を歌い終え、楽しく3回目の記念撮影をしました。その後駐車場まで皆様移動。そしてめんたいパークへ車で移動。めんたいパークは明太子の老舗かねふくが運営する

明太子専門テーマパークです。無料で見学できる明太子工場に、できたて明太子の直売店、明太子で加工したフードコーナなどあります。約15分程で到着いざ来店、入ってすぐにあるスケトウダラの色々な生態の説明をガイドさんが熱心にされました。スケトウダラの子が明太子なのです。そして次に明太子工場見学です。明太子を同じ大きさに選別し、箱詰し、様々な工程をし、お店にだされま。そして皆様お待ちかねの明太子コーナーを回り試食し思々の商品を買われ、休憩所で休憩され、お話しも盛り上がり、3時前に帰る準備となり、ゆっくりと出発、天気は曇でしたが雨に合わず気候も良く、利用者様方々とスタッフ一同安全に見守りができ、3時30分前にハナの会前に到着し、ハナの会にて少し休憩し、各自家路へ着きました。

私の母と同年代位の利用者様である、オモ二、ハルモ二、長寿でいてください。(山下 孝博)

■■■ グループホーム・小規模多機能型居宅介護ハナ■■■

◆小規模多機能居宅介護ハナ3周年

2013年10月にオープンした小規模ハナは無事に3周年を迎える事が出来ました。オープン当初は登録利用者様が4名で、韓国・朝鮮、中国、日本と多国籍。スタッフも日本、韓国、中国、ベトナムとこれまた多国籍。言葉の壁や文化の違いに戸惑いもありましたが、現在は登録利用者様が15名となりました。他の小規模多機能との大きな違いは市内全域に渡り利用者様(とりわけ垂水区に集中)が在住している事です。それ故に送迎に時間を取られる事もありますが、スタッフが当番制で昼食作りや外出レク・利用者様により中国語講座に取り組んでいます。利用者様と一緒に昼食作りを行う事も増えてきました。何より中国語講座を始めた事でスタッフの意識も変わってきたように感じています。あるスタッフからは「言葉が通じない事もあるけれど、利用者さんとの距離が縮まった」と聞くこともあります。私自身も利用者様の表情が変化したと実感しました。

無事に3周年を迎える事が出来た事に日頃の感謝の意味も込めて3周年の集いを企画しました。夜勤入りや夜勤明けのスタッフによる買い出し、公休者がボランティアとして入浴介助をしたりとスタッフ総出でお料理をしたりスタッフが民族衣装を披露する事も出来ました。利用者様による楽器の演奏や歌声の披露もあり手作り感満載のイベントを行う事ができました。ご参加いただいたすべての皆さまに感謝いたします。

(星野 敬子)

■■■ 今後の予定■■■

■日本語プロジェクト

日本語支援者向けステップアップ研修会

(於：KFC本部事務所)

I.11月29日 10:00~11:30

「日本語能力試験」について

斎藤 明子 (神戸女学院大学講師 前神戸YWCA主任講師)

II.11月30日 13:00~14:30

「①活動を共有しよう! ②初級の日本語文法」

後藤 ひろ子 (神戸国際協力交流センター・KFC講師)

III.12月17日 13:00~16:00 事例発表会

■KFC帰国者新長田交流会

11月29日(火) 農業体験

■多文化子ども共育センター

12月27日(火) 年末お楽しみ会

於 新長田勤労市民センター調理室(予定)